

## 感謝録

不破 満雄兄	加納 幸子姉	小坂 るみ姉
三繩 博兄	三繩 都美子姉	坂田 淑姉
下竹 博兄	下竹 寛子姉	下竹 祐三郎兄
下竹 由美子姉	Scroggins 由紀牧師	武井 里花姉

## 記事: 消息

\* 過ぎにし聖日(7月14日)

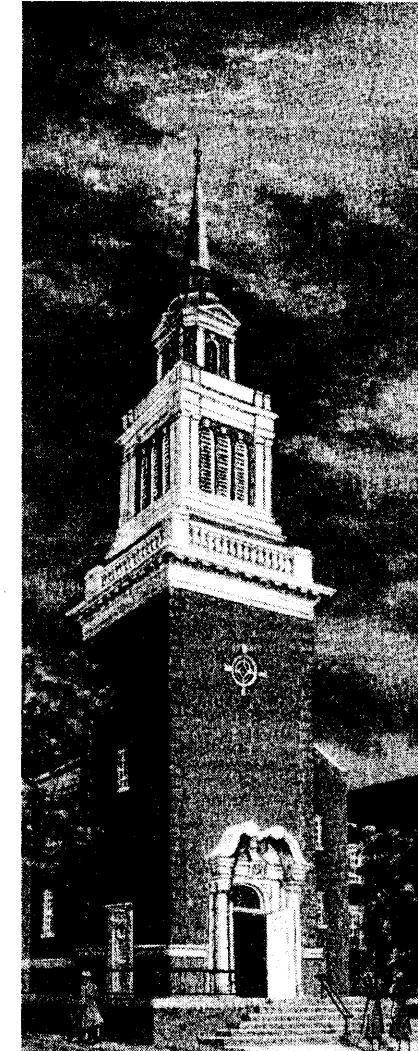
一 由紀牧師の説教：“語り続けよ”と題し、使徒行伝18章5—11節からでした。コリントに着いたパウロは、イエスがキリストであることを力強くあかして、ユダヤ人たちの烈しい妨害にあったため、“今からわたしは異邦人の所へ行く”と言って其処を去り、テオテ・ユストという神を敬う人の家に行きました。家の隣りは会堂で、会堂司クリスピオは、家族一同と共に福音を信じ、また多くのコリント人もパウロの話を聞いて信じ、バプテスマを受けました。ある夜、幻の中でパウロに対して主は、“恐れるな。語り続けよ、黙っているな。あなたには、わたしがついている。だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町にはわたしの民が大せいいる。”と言われました。主の福音を語る時、どのような妨害があっても、主がともにいてくださり、力を与えて下さいます。

一 聖書研究：ローマ人への手紙11章16—18節からでした。キリストという根に枝としてついている信徒たちは、パウロが“麦粉の初穂(キリスト)がきよければ、そのかたまりもきよい。もし根がきよければ、その枝もきよい”と言っているように、主イエスキリストにつながって、きよめられ靈的な糧を得ています。野生のオリーブの枝として、恵みのうちにキリストにつながれ、その根の豊かな養分にあずかっている信徒たちが、その枝に対して誇ることなく、その恵みに感謝出来ますように。

\* 8月4日(日) 礼拝後、恒例のピクニックが Peterson Park でおこなわれます。ホット・ドッグ、ハンバーガー、飲み物は、教会で準備しますが、各自で、野菜、サラダ、デザートなどを用意くださるようお願いします。折り畳み椅子、毛布などをお持ちになれば便利です。

\* 8月5日(月)－8月9日(金) Rhythms of the Spirit  
Green Lake Conference Center  
忙しい仕事や自分から離れ、美しい Green Lake の畔で、瞑想の祈り、音楽礼拝、沈黙の中に過ごす修会です。  
詳細は、 [www.rhythmsofthespirit.com](http://www.rhythmsofthespirit.com) へ御連絡ください

発行：2013年 7月 16日 ノースショア・バプテスト教会日本語部  
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)  
Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: [yscroggins@northshorebaptist.org](mailto:yscroggins@northshorebaptist.org)



# 週報

第3443号  
2013年 7月 21日

ノースショア バプテスト教会 日本語部  
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640  
Tel: 773-728-4200 Web: [www.northshorebaptist.org](http://www.northshorebaptist.org)

## 日曜日礼拝順序

2013年 7月 21日 午前11時 南部チャペル

前奏		武井 里花姉
讃美歌	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交説文	23 詩篇 96篇	
賛美歌	63 "いざやともに いさみすすめ"	Scroggins 由紀牧師
祈りの時		
聖書説教		坂田 淑姉
	使徒行伝 18章 24-28節	
賛美歌	312 "いつくしみ深き 友なるイエスは"	
説教		Scroggins 由紀牧師
	「アポロの伝道」	
賛美歌	502 "いともかしこ イエスの恵み"	
献金		下竹 博兄
報告		
讃美歌	541	
祝祷		Scroggins 由紀牧師
後奏		武井 里花姉

(礼拝終了:奉仕開始)

祈祷・聖書学習会 午前9時45分 109号室  
ローマ人への手紙 11章 指導: Scroggins 由紀牧師

交わりの時 礼拝後 南部チャペル

### 今週の聖句

アモス書 8章 1-12節 詩篇 52篇  
コロサイ人への手紙 1章 15-28節  
ルカによる福音書 10章 38-42節

## 憩いの場

### “靈の解放”

“主は靈である。そして、主の靈のあるところには自由がある。”（コリント人への第二の手紙 3章17節）

先日、夫の親戚のうちにいって、3歳になる女の子とはじめであったのですが、人種がちがうことも全く気にせずにあっさりとなついてきたので、私のほうが驚きました。子供たちを見ていると、どんな人種であれ見ず知らずの人間でさえ、心を開ける無防備さと自由があるようで、普段大人と接していると新鮮に感じます。だからこそ大人の保護を必要としているのかもしれません、同時に大人が教えられることもあります。というのは、大人になってからの信仰生活において、神に従うための一一番のチャレンジは、子供の柔らかな心とは打って変わった、かたくなさであるからで、それはもちろん人生経験からくる独自の考え方から来るものです。人生経験が増えれば、それだけ考え方も固まってきます。しかし何か選択を迫られたときに、自分の考え方や生き方、嗜好をどうしても貫きたい、変えたくない、という場合、それが本当に神からされているのか、信徒はみことばをもとに、吟味する必要があると思います。“主の靈のあるところには、自由がある”と聖書には書かれていますが、私たちが、ご聖靈にしたがって歩むとき、そこには自分の力だけを頼りに生きる自由とは全く違う、本当の意味での自由があるのではないでしょうか。そして、御靈は自由だけでなく、その実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔軟、自制と多くの徳を生み出します。（ガラテヤ書5：22）何か重大な決断をするときに、私たちが自分の限られた知識や経験だけに頼るのでなく、聖書を読み、祈りつつご聖靈のお力に導かれて行う事ができますようにお祈りします。（スクロギンズ由紀）